

寺津中学校

自ら考えて行動し、地域の未来を創造する生徒の育成

1 心を耕す教育活動

(1) 道徳授業の実践

全校同じ日の同じ授業時に道徳の授業を配置している。主担任だけでなく多くの教員が道徳の授業で生徒とかかわることで、お互いの信頼関係を築きやすくなる。また、生徒も安心して授業に向かうことができ、さらに道徳心を高められると考えている。

(2) 心とからだをテーマにした授業実践

命を大切にすることを育むために、命をテーマにした道徳の授業を実施する。また、保健の授業とも連携し、心とからだの健康について考えを深めていく。

2 社会で生かすことのできる思考力、コミュニケーション能力を育む学習指導

(1) 読書タイムの設置

月から木までの朝学習の時間に読書の時間を設け、より多くの活字に触れたり、本の中の登場人物と自分を照らし合わせて考えたりすることで、思考力が育つと考える。また、図書室にある本を充実させることで、読書を楽しむ寺中生が増えると考えている。

(2) 課題に向かう心、自分の考えを練り上げる力を育む授業づくり

出会いの工夫と考えを練り上げるための一手を中心とした授業づくりを進めている。単元の導入では、生徒が考えてみたい、解決したいと思える教材との出会いをすることで課題に向かう心を育てるきっかけとなると考える。単元の展開では、より多角的に・多面的に考えられるように「練り上げの一手」を行い、考えを更新する力を高める。このような授業を繰り返すことで、自ら考えて行動できる寺中生が育つと考える。

(3) 寺トークの設定

毎週金曜日の朝学習の時間に「寺トーク」を設定し、友達とのかかわりを通して、自尊感情とソーシャルスキルを高めている。

3 地域とともに育つ寺中生

地域の一員として地域を守ることができる寺中生の育成をめざしている。登下校避難訓練で、地域の危険箇所を考える場面を設けている。1年生は総合的な学習の時間で地域の防災について学習を行う。1月の防災フェスティバルに地域住民を招き、自分たちの学びを地域に発信している。こういった活動を行うことで、有事のときに地域のために行動できる生徒が育つと考える。また、地域ボランティアに積極的に参加したり、情報モラル向上講話などに地域住民を招いたりして、地域とともに成長する寺中生を育む。



防災フェスティバルの様子

- ・全校道徳実践(毎週火曜日)
- ・情報モラル向上講話(4月)・クレペリンテスト(4月)・地域別生徒会(4月)・テントボランティア(5月)・学校保健委員会(6月)・寺津盆踊りボランティア(8月)・文化のつどい(11月)・寺津っ子を育てる会教育講演会(12月)・清掃ボランティア(1月)
- ・防災訓練(4月6月9月)・小中連絡会(年4回)・授業参観(年3回)